

ニューズレター 2012 年度第 3 号

日本音楽表現学会 2013 年 3 月 31 日発行

第 11 回（イーハトーヴ大会特集）

【巻頭言】 大会チラシ制作の楽しみ	奥 忍	p. 2
日本音楽表現学会第 11 回（イーハトーヴ）大会のご案内	佐々木正利	p. 3
実行委員会組織、大会日程、プログラムの概要と発表者氏名 懇親会、宿泊案内、参加費、参加申込、送金先、申込み切、アクセス		
【随想】 ささやかなウィーン音楽案内	後藤 丹	p. 7
新入会員紹介		p. 8
日本音楽表現学会後援コンサート等情報		p. 8
『音楽表現論文執筆のしおり』発行と『音楽表現学』Vol.11 原稿募集	伊野 義博	p.10
日本学術振興会「育志賞」の推薦について		p.10
事務局からの重要なお願い		p.11
年会費の納入について 住所・所属・電話番号・メールアドレスの変更は速やかにお届けください！		
事務局からのお知らせ		p.11
ニューズレターへの投稿 学会の会員サポート制度をご活用下さい。 『音楽表現学』バックナンバー購入方法		
【各種書式】		p.12
2012 年度役員		p.12
編集後記		p.12

日本音楽表現学会



所在地：〒 616-8025 京都市右京区花園土堂町 1-6

事務局：〒 520-0862 大津市平津 2-5-1 滋賀大学教育学部杉江研究室気付

Tel. & Fax. 077-537-7792

E-mail: music-expression@music-expression.sakura.ne.jp

URL: <http://www.music-expression.sakura.ne.jp/>

年会費 (5,000 円) の振り込み

郵便振込口座：01370=6=78225 加入者名：日本音楽表現学会

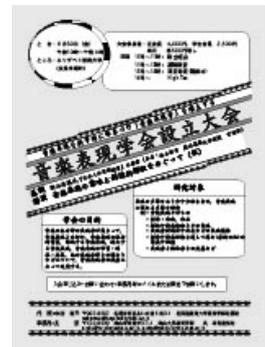
大会チラシ制作の楽しみ

奥 忍 (ヴァイオリン・インストレーション/事務局担当理事)

「イーハトーヴ」はどんな雰囲気、どんな色調なのだろうか。チラシデザイナーは大会の愛称から課題をいただく。金色だという人もいれば、青じゃないのか、という人もいる。「イーハトーヴ」、理想郷は通り一遍の色ではなく、様々な色が混じり合った玉虫色なのだろう。とはいえ、基調とする色調を決めねばならない。大会チラシのデザインは悩ましい楽しみである。

日本音楽表現学会では立ち上がりの当初から『大会要項』と機関誌『音楽表現学』の表紙の色は「大会チラシ」に、「大会チラシ」は大会の愛称に関連づけられてきた。音楽が音響による表現だとすれば、「大会」は音楽表現に携わる人たちがその表現について考えを深める時空間である。「大会チラシ」ではそのことを視覚的に表現したいとチラシデザイナーは考えている。

10年前、「設立大会」では、準備しなければならない重要な案件が多く、チラシデザインにまで考えが及ばなかった。しかし、参加を呼びかけるために直前にチラシを急遽作成した。今では過去のものとなった Appleworks という名のマルチソフトのお絵かきバージョンでデザインし、黄色上質紙に印刷した。大会名「設立大会」は色を感じさせず、チラシも「目立ればいいでしょう、分かれば良いでしょう」程度のものである。ちなみに『音楽表現学』Vol.1の表紙はVol.10まで続いたデザインの黄色バージョンである。



設立大会チラシ

第2回「ライラック大会」は愛称からして色彩をイメージさせる。そこで、薄紫や薄紅色の枠を組み合わせたチラシとなった。その後の大会は第3回「アクアブルー」、第4回「グリーン・アヴェニュー」、第5回「火の国」、第6回「ベル・ジューリオ (美しいユリ)」と、いずれも愛称自体が特定の色彩を想起させる。

作成ソフトを「お絵かき」からデザイン専用ソフト「Illustrator」と「Photoshop」の併用に変えたのは第7回の「プロムナード in フォレスト」の時である。線や色が自由になり、デザインの幅が一気に拡大する。森の小径で遭遇する様々な驚きや喜びが音楽表現の探究と共通するのではないかと考えながら色や形を重ねていった。第8回「響の都」では古都の五重塔を配置、着物の帯揚の縮緬をスキャンして色抜きし、何枚も重ねて悠久の空気感の表現を試みた。第9回、流動的な「甘露」の表現は悩み甲斐があった。天から降りてくる清らかな恵みの甘露が楽を奏でるイメージでデザインしてみた。「Blue Valley」は新宿から山梨にかけての溪谷から立ち昇る朝霧のイメージである。

チラシデザインの作成途中では、美術大学の壁一面にはられたポスターと見比べながら作業を進める。チラシとポスターデザインとの多少の違いを想定した上で、拡大したときに見る人の目を惹くことができるか、

周囲に埋没してしまわないか、内容を的確に表現しているか、その上、チラシが音楽のリズムやハーモニー、構成を感じさせるか等の評価基準をデザインの課題としている。さらに、今回は最も重要な評価基準として「会員諸氏の心のイーハトーヴ色と共振・共鳴できるか」を加えた。

入稿をすませた今、私にできるのは美しい仕上がりを祈ることのみである。かくして大会チラシ制作はまことに悩ましくも大いなる楽しみである。



第7回～第10回のチラシ

日本音楽表現学会第11回（イーハトーヴ）大会のご案内

期日：2013年6月8日（土）～9日（日）

会場：マリオス：盛岡市民文化ホール 及び

アイーナ：いわて県民情報交流センター

（JR盛岡駅北西側隣接）

ここからお待ちしております

大会実行委員長 佐々木正利

2011年3月11日に起きたあの忌まわしい東日本大震災から丸2年、1000年に一度の大津波に襲われた三陸沿岸の町々を先日訪れてみました。

私の脳裏に残るかつてあった町並みはそこにはありません。そこはまるで新規の宅地造成地のごとく、区画だけが残されたほんの少しの平地でした。漁師の街のあの賑わいはどこに消えたのでしょうか。あんなにいた人々はどこに逃げていったのでしょうか。

岩手は、その県土の95%以上が山地です。その山々が海辺にまで迫り、リアス式海岸を形づくっています。冬の厳しい寒さはもとより、夏にも海から押し寄せるやませで太古の昔から冷害に悩まされてきました。ほんの少しのやせた土地にすがりながら人々は懸命にいのちをつないできたのです。

賢治も啄木もそんな地に生まれました。自然にじわるされながらも、その自然をこよなく愛し、ふるさとの山や川に思いを馳せながらここを表現してきました。岩手が誇れるのは、そんなところと自然だけです。

そんな岩手を、東北を励まそうと学会は岩手に大会をもってきてくれました。みなさん、そんな盛岡さおでってくなんせ。いっしょに大会を盛り上げてくなんせ。ここからお待ちしております。

第11回大会参加のお誘い

会長 安藤 政輝

今大会の愛称である「イーハトーヴ」とは、宮沢賢治の心象中に存在する理想郷（ドリームランド）である、ふるさと「いわて」を表す造語であるといわれています。

2月、事務局の方々と共に訪れた盛岡は、前日に降った大雪に覆われていました。しかし、その日は春のように暖かく、マフラーも外して会場に向かいました。ガラス張りの明るい建物は駅の真向かいにあります。会場は二つに分かれています。目と鼻の先にあり、万が一雨が降っても濡れないで行き来できます。会場内にはレストランもありますし、見回すとホテルの看板も数多く見えます。

実行委員会との打ち合わせでは、佐々木委員長をはじめ、岩手大学など数多くの大学からの委員の方々、院生・学生の皆さん、色々な立場からの自由な意見が多く出て、一人ひとりの今大会に対する熱い思いがひしひしと伝わってきました。

なお、「宮沢賢治記念館」は新花巻駅そばにあります。盛岡市玉山区渋民には「石川啄木記念館」が、また近くの紫波町には、「野村胡堂・あらえびす記念館」もあります。

研究発表・ワークショップをはじめ、サロン、懇親会も待っています。暖かい人情と岩手山が迎える「理想郷」での第11回大会にぜひご参加ください。

1) 大会実行委員会組織（2012年3月31日現在）（敬称略）

実行委員長	佐々木正利	岩手大学
副委員長	渡辺 修身	山形大学
事務局長	牛渡 克之	岩手大学
事務局次長	在原 泉	岩手大学
委員（総務担当）	吉村 哲	盛岡大学短期大学
委員（会計担当）	千田 絵未	盛岡大学
委員（庶務担当）	西野 真史	岩手県立大学
委員	原田 博之	宮城教育大学
委員	渡会 純一	東北福祉大学
委員	劔持 清之	盛岡大学短期大学
委員	佐藤 純一	尚綱学院大学

2) 全体日程と会場

凡例：M＝マリオス

A＝アイーナ

日 時	プログラム	会 場	日 時	プログラム	会 場
8日(土)			9日(日)		
12:20-	受付*	M小ホール前ホワイエ	9:00-	受付	A 6Fエスカレータ前
12:10-12:45	アトリウムコンサート1	M 4Fアトリウム	9:15-10:45	分科会Ⅱ A～F	MとAの各分科会場
13:00-13:35	開会式	M小ホール	11:00-12:30	分科会Ⅲ A～F	〃
13:35-14:30	基調講演	↓	12:30-13:30	昼食	適宜
14:30-15:20	ワークショップ	↓	12:40-13:20	アトリウムコンサート2	M 4Fアトリウム
15:40-16:40	総会	↓	13:30-15:00	分科会Ⅳ A～F	MとAの各分科会場
17:10-18:40	分科会Ⅰ A～F	MとAの各分科会場	15:15-16:45	分科会Ⅴ A～F	〃
18:40-19:30	移動	(徒歩)	16:45	閉会	MとAの各分科会場
19:30-21:30	懇親会	盛岡駅周辺を予定			

*受付：8日 12:20-16:00 まではM小ホール前ホワイエ、以後A 6Fエスカレータ前に移動します。

3) プログラム概要と発表者等氏名(敬称略)

(1)	オープニング	『大会要項』をご覧ください。	
*	アトリウムコンサート	同上	
(2)	基調講演と ワークショップ	“賢さん”の音楽表現—<マサニエロ>をめぐって— 童話「かしはばやしの子」を上演しよう！ 佐藤泰平氏(立教女学院短期大学名誉教授)	
(3)	学会企画統一テーマワー クショップ：音楽表現の理 念と技法	⑦ ボーダレス化社会における音楽表現 ⑧ 楽器製作と音楽表現	海津幸子・齊藤 武 奥村 治・山田 貢
(4)	サロン ピアノ ソルフェージュ 作曲 その他	ピアノ演奏におけるテクニックと音楽表現の連関 —練習曲・教則本に焦点を当てて— ソルフェージュ教育は人を育てているか？ —正しい視点と豊かな技法をもとめて— 作曲家による作品上演と演奏者による演奏 グループ別の自由な討議	野崎博子・三島郁・ 安田香・柳井修 飯島元子・田島孝一・ 中村隆夫・矢内淑子 (連絡係)小畑郁男
(5)	共同研究(副題省略)	日本語の演奏表現 多彩な気候環境に関する学際的授業の取り組みにみる音楽表現 科学的内容を導入した幼稚園訪問演奏会プログラムの開発 日本の吹奏楽部における外部講師制度の必要性について 保育者の歌声を考える(その2)	小畑郁男・佐野仁美 加藤晴子・加藤内蔵進 豊田典子・豊田秀雄・ 荒川恵子・岡林典子・内田博世 加藤博行・渡会純一 志民一成、嶋田由美、小川容子
(6)	研究発表(副題省略)	音楽の即興表現を考える(3) ピアノ教育者バルトークの運指とペダリング ベートーヴェン後期ピアノソナタにおける変奏曲形式の特徴 とその演奏法の考察 F. リストのピアノ作品における標題と音楽の関連性 ラフマニノフとロシアの鐘 ピアノアクション分解のワークショップを通して 宮城道雄の「歌曲」の表現(仮) 澤田柳吉の作曲活動と作品出版について 三善晃の作品が体現する「絶えざる世界の転倒」について(2) アメリカにおけるプロテスタント教会での音楽	藤原嘉文 田中宏明 深井尚子 町田百合絵 永岡 都 高久新吾 山下真由美 多田純一 阿部亮太郎 石田由紀子

	ピアノ演奏における旋律表現の工夫 ピアノ教材としての邦人作曲家作品に関する試論 ポール・クレストンのリズム指導観に関する研究 「分割譜」に関する研究（仮） 言語特有リズム解析と歌唱指導への応用 日本におけるヒューマンビートボックスの現状 時空間の統合的表現（2） 日本における音楽医学の現状（仮） リズムから語る「大地」の思想（仮） ルバート？それとも定型通り？（仮） 音楽作品におけるアブノーマルなもの レナード・マイヤーの「情報理論と音楽における意味」に基づく楽曲 分析手法の検討 1950年代ロック音楽誕生の背景 昭和初期のハーモニカ音楽の普及と全日本ハーモニカ連盟 「音楽科教育」の授業実践から教員の力量向上へのアプローチ 暫定教科書『師範音楽 本科用』で修正された《日本農道の歌》 音楽教育における「情操」の起源と変遷 音楽鑑賞教育におけるマテリアリズム的傾向に関する諸問題 フェルナンド・ソルのギター・ソナタにおけるJ.L. ドゥシークの ピアノ・ソナタからの影響 中国新疆・観光化による芸能パフォーマンスの変容 パラオの日本語歌謡集成（仮） 2楽章構成ピアノソナタの変遷について 縦線譜の実践研究 保育士養成校における読譜指導 保育科における実習前の実践的なピアノ指導について ミュージカル活動から学生が学んだこと 「スクール・ミュージカル」活動における表現（仮） 中学校音楽科教育における「言葉の特性」を生かした授業展開 音楽教育における表現の諸問題	中畑 淳 菅野雅紀 酒井勇也 柳田憲一 上羽広明 河本洋一 奥 忍 安藤珠希 上野 仁 鷲野彰子 西田絃子 小寺未知留 齊藤 武 檜下達也 董 芳勝 鈴木慎一朗 光平有希・山本由紀子 曾田裕司 亀井貴幸 鷲尾惟子 小西潤子 林 智草 阿方 俊 新山隆健 田中慈子 土門裕之・山田克己 阿部祐治 小原一穂 吉田恵子
(9) 総会	資料は当日配布します。	
(10) 懇親会	盛岡駅周辺を予定	

* イーハトーヴ実行委員会特別企画です。開会前と2日目昼食時にマリオス4Fのアトリウムでコンサートが開かれます。ロマンティックで開放的なフロアでの演奏をお楽しみ下さい。

4) 懇親会

懇親会については大会要項にてご案内致します。会場は盛岡駅周辺を予定しています。

5) 宿泊案内

盛岡駅周辺にある以下の各ホテルをお取りできます。

- ・ メトロポリタン盛岡（本館）
- ・ ホテルルイズ
- ・ ホテルルートイン盛岡駅前

宿泊をご用命の場合は、(株)トラベル e旅.com（担当：佐藤）まで、お気軽にお問い合わせ下さい。

<http://www.travel-e-tabi.com/>

〒981-3121 宮城県仙台市泉区上谷刈3丁目9-22

TEL:022-797-5005 FAX:022-797-5006

6) 参加費：「参加申込書」をご覧ください。

7) 参加申込：以下の書式に必要事項と（✓）をご記入の上、事務局にお送りください。

第11回（イーハトーヴ）大会参加申込書			
ご氏名：			
連絡先：〒			
E-mail			
参加費：学会員		5,000 円	
当日会員	1日につき	3,000 円 参加希望日 () 8日 () 9日
学部学生	1日につき	2,000 円 参加希望日 () 8日 () 9日
懇親会費：		6,000 円	
合計：		_____ 円	

8) 送金先：会員には5月初旬発行予定の『大会要項』に郵便振替票を同封しますので、それをお使いください。学会員以外の方はまず事務局に参加をお申し込み下さい。『大会要項』とともに振替票を送ります。

9) 申込〆切：2013年5月31日（金）

10) アクセス

【東北新幹線・秋田新幹線】

- 東京—盛岡：2時間21分（はやて）
2時間13分（はやぶさ）
- 八戸—盛岡：29分（はやて、はやぶさ）
- 新青森—盛岡：53分（はやぶさ）
- 秋田—盛岡：1時間26分（こまち）

【空路／花巻空港（JAL）】

- 大阪（伊丹）—花巻：1時間30分
- 札幌（新千歳）—花巻：55分

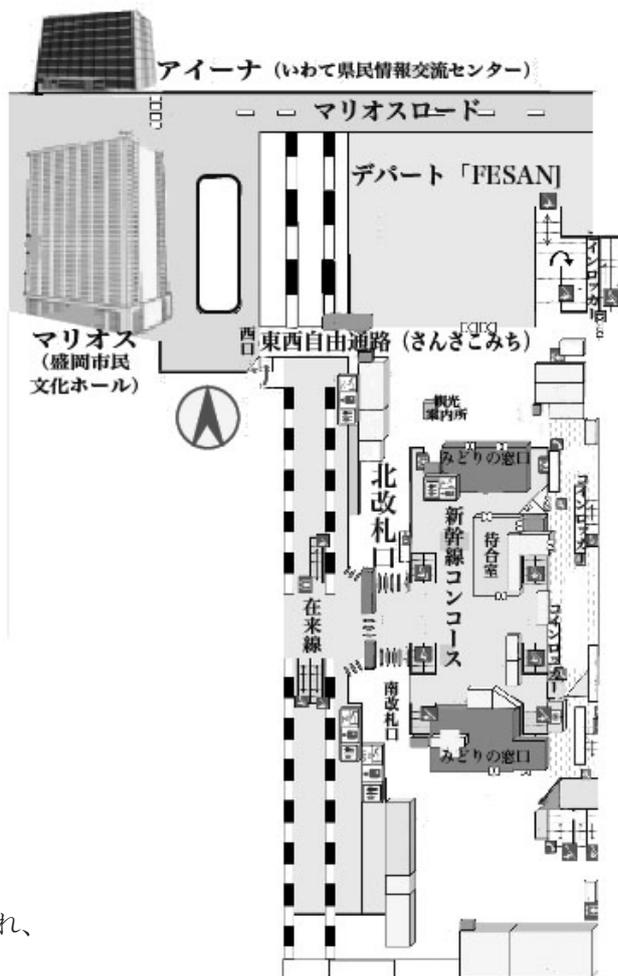
【花巻空港—盛岡駅】岩手県交通バス50分

【東北自動車道】

- 青森IC—盛岡IC：2時間
- 秋田中央IC—盛岡IC：1時間30分
- 仙台宮城IC—盛岡IC：1時間15分

【盛岡駅→マリオス、アイーナ】

- 徒歩：JR盛岡駅北西側直結（右図参照）
- ・北改札口（2F）から出てデパート前を左に折れ、さんさこみちを進むとマリオス2F入口
- ・さらにまっすぐ進むとアイーナの2F入口です。



ささやかなウィーン音楽案内

後藤 丹 (作曲／編集担当理事)

昨年の10月から約半年間、ウィーンに住む機会を得ました。

グルック、ハイドン、モーツァルト、ベートーヴェン、シューベルト、ブルックナー、(ヨハン・) シュトラウス、ブラームス、ヴォルフ、マーラー、シェーンベルク、ヴェーベルン、ベルク、その他大勢の有名作曲家がここを舞台に仕事をし、それぞれがいろんな事情を抱えて引っ越したり散歩したりで、彼らの魂が今もさまよっているような街。いきおい多くの遺品や自筆譜などが眠っています。また、演奏会の質の高さと数は言うまでもありません。時間を見つけては、冬の猛烈な冷え込みに耐えながら、音楽遺跡(?)めぐりとオペラ・コンサート通いに励みました。

ウィーン交通網は見事で、地下鉄、路面電車、バス、国鉄を共通の切符で自由に乗り継ぎ、市内のどこにでも行けます。基本的に改札がないのが実に開放的。週間定期券を買っては研究を重ね、しまいには行き先が分からないバスにも飛び乗れるまでになりました。幸いこの街は比較的安全で、夜間、ジョギングをする人にもよく出会います。もっとも、そのランナーが強盗だったら、とても逃げ切れないでしょうけれど。

国立オペラ座の最高の席は演目により200ユーロを越えますが、14歳未満はランクに関わらず15ユーロで買えます。また、大人でも立ち見ならわずか3ユーロ(400円弱)で入場できますし、50枚綴り80ユーロの回数券さえあります。若者を育てるために赤字でもそうしているのでしょう。連日フォルクスオパーでもオペレッタ等上演し、楽友協会、コンツェルトハウスでも複数のホールでコンサートを開いているのに、どこへ行ってもちゃんとお客さんが入っているのは驚きます。観光客だけでは決してなく、音楽を愛好する市民の層の厚さを実感します。

さて、紙面も限られているので、今後ウィーンを訪れる方のために、あまり知られていないお薦めの

音楽スポットを5つだけご紹介しましょう。

1. オーストリア国立図書館の音楽部門：

地下鉄ヘレンガッセ駅のすぐそばに独立してあります。楽譜や音楽書を自由に閲覧できるほか、所蔵の自筆譜等をマイクロフィルムで見ることが出来ます。なお、一部の資料はネット上でも公開されています。

2. アーノルド・シェーンベルク・センター：

コンツェルトハウスの近く。市管轄の研究所で充実した図書室とショップがあり、シェーンベルクと現代音楽関連の楽譜、書籍、ポスター等おそらくここにしか置いてないものも多数。

3. ドブリンガー楽譜店の古書部：

かつて店の奥にあった正規の古書部門は残念ながら廃止されたのですが、スタッフの一人が仕事を引き継ぎ、同社の4階で営業を続けています。店の横の扉から一旦出て、建物奥のエレベータで上ります。雑然とした中に古い珍しい楽譜を発見することができるかもしれません。

4. ハイドン博物館：

ハイドンが晩年に住んだ家で、作曲家のミュージアムの中でもおそらく最も落ち着いた空気が流れ、往時をしのべる場所です。1部屋を間借りしているブラームスの記念室も興味深い展示。

5. カール・チェルニーの墓：

中央墓地のお堂に近い32区にはベートーヴェン、シューベルト等大作曲家の墓が集められていますが、なぜかチェルニーの墓はそこからかなり離れた入り口付近の壁際にあります。中央の入り口から左手に回り込んで塀に沿って48番目。練習曲でお世話になったピアノ関係者は率先してお参りすべきでしょう。なお、同じ並びをさらに進むとサリエリの墓もあります。



フォルクステアター近くで

新入会員紹介

個人情報のため削除

日本音楽表現学会後援コンサート等情報

- 島野 聖章さん **The Art of Transcription ～華麗なる編曲作品の世界～**
日 時：2013年1月20日(日) 14:00 開演
会 場：music café Anges (奈良県橿原市)
趣 旨：F. リスト (1811-86) と F. ブゾーニ (1866-1924) による編曲作品を中心にプログラムを構成
主な内容：バッハ／ブゾーニ編曲：トッカータ・アダージョとフーガ ハ長調 BWV564、
バッハ／島野編曲：G 線上のアリア、メンデルスゾーン／リスト編曲：歌の翼に、
シューベルト／リスト編曲：セレナード、アヴェ・マリア、リスト：パガニーニ大練習曲 第6番 他
料 金：1500 円
- 鶴澤 友球さん **鶴澤友球 浄瑠璃ライブ vol. 3**
(向田由美) 日 時：2013年1月27日(日) 14:00 開演
会 場：向田宅 (淡路市中田 1673-1)
演 目：『傾城阿波の鳴門』八段目〈巡礼歌の段〉
料 金：一般 1,400 円 高校生以下 1,000 円
主 催：友球会&鶴澤友球
後 援：(財)淡路人形協会他

鶴澤 友球さん
(向田由美) 鶴澤友球 浄瑠璃ライブ vol. 4
日 時：2013年2月24日(日)14:00開演
会 場：向田宅(淡路市中田1673-1)
演 目：『伊達娘恋緋鹿子』〈八百屋お七火の見櫓の段〉
料 金：一般1,400円 高校生以下1,000円
主 催：友球会&鶴澤友球
後 援：(財)淡路人形協会他

鶴澤 友球さん
(向田由美) 鶴澤友球 浄瑠璃ライブ vol. 5
日 時：2013年3月24日(日)14:00開演
会 場：向田宅(淡路市中田1673-1)
演 目：『壺坂観音霊験記』〈沢市内の段〉
料 金：一般1,400円 高校生以下1,000円
主 催：友球会&鶴澤友球
後 援：(財)淡路人形協会他

鶴澤 友球さん
(向田由美) 鶴澤友球 浄瑠璃ライブ vol. 6
日 時：2013年4月20日(土)14:00開演
会 場：向田宅(淡路市中田1673-1)
演 目：『伽羅先代萩』〈政岡忠義の段〉
料 金：一般1,400円 高校生以下1,000円
主 催：友球会&鶴澤友球
後 援：(財)淡路人形協会他
申込み・問合せ：Tel&Fax 0799-62-5805 (向田) tsuruzawa-tomoju@ezweb.ne.jp

齊藤 祐さん 鹿児島大学学友会管弦楽団 第89回定期演奏会
生誕200年記念「ヴァーグナーとヴェルディのオペラ合唱曲」演奏会
日 時：2013年7月7日(日)15:00開演
会 場：鹿児島市民文化ホール第一
主要内容：シューベルト：未完成、ヴァーグナー：《タンホイザー》より「大行進曲」、《オランダ人》より「紡ぎ歌」、ヴェルディ：《ナブッコ》より「行け我が思いよ黄金の翼に乗って」、《アイーダ》より「凱進行進曲」他
演 奏：鹿児島大学学友会管弦楽団
指 揮：大河内雅彦
合 唱：生誕200年記念合唱団(一般公募・学生)
合唱指揮：齊藤 祐
料 金：1,000円

澤田まゆみさん 澤田まゆみピアノリサイタル my favorites ~ vol.2 舞曲 x 和声的色彩
日 時：2013年7月28日(日)15:00開演
会 場：浜離宮朝日ホール
主要内容：バッハ：パルティータ第2番、バルトーク：ピアノソナタ、ベルク：ピアノソナタ、プロコフィエフ：バレエ《ロメオとジュリエット》より10の小品
料 金：3,500円(全席自由)
後 援：日本演奏連盟他

『音楽表現論文執筆のしおり』発行及び『音楽表現学』Vol.11 原稿募集

学会誌編集委員長 伊野 義博

『音楽表現論文執筆のしおり』がお手元に届いていると思います。音楽表現に関する様々な事柄について、それをまとめ文章にするための考え方や方法が、簡潔かつ分かりやすく説明されています。文章をまとめる際、是非とも活用していただきたいと思えます。

学会誌への応募原稿の種類は、「研究論文」「評論論文」「研究報告」「寄書（研究速報、討論、提案、

学会に対する意見など）」など多彩です。

『音楽表現学』Vol.11 の投稿メ切は 2013 年 5 月 31 日（金）です。執筆要領や投稿の方法については『音楽表現学』Vol.10 の巻末、または学会 HP の「投稿規程」をご覧ください。なお、投稿時点では 2 段組ではなく、1 段組でご応募ください。

多くのご投稿をお待ちしております。

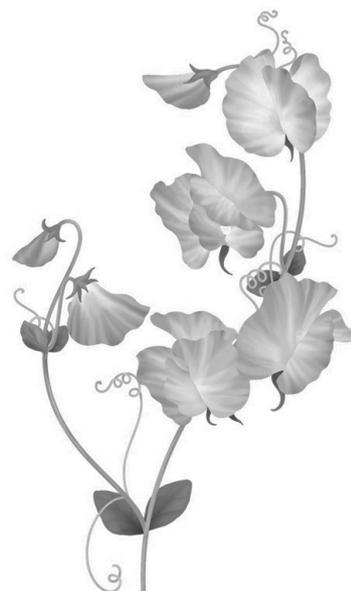
日本学術振興会「育志賞」の推薦について

日本学術振興会から平成 25 年度「育志賞」の候補者推薦の依頼が届いています。以下の 3 つの条件に合致する会員は推薦を検討しますので、事務局までお申し出ください。

- 1) 対象者の条件
 - ・本年 4 月 1 日現在 34 歳未満
 - ・本年 5 月 1 日時点で日本の大学院博士後期課程に在学中
 - ・日本音楽表現学会機関誌『音楽表現学』に論文が掲載されていること。
- 2) 申し出のメ切 2013 年 4 月 30 日

申し出のあった会員の中から本学会として推薦するにふさわしいと思われる方を 1 名選出します。候補者として選ばれた方は育志賞の受付期間（6 月 12 日～14 日）までに書類を準備していただくことになります。ご質問がありましたら、ご遠慮なく事務局 music-expression@music-expression.sakura.ne.jp までご連絡ください。

(理事会)



事務局からの重要なお願い

1) 年会費の納入について

- ・学会のすべての活動は皆様方の年会費で運営されています。機関誌の発行、大会の開催など、さまざまな活動に支障をきたすことのないよう、速やかな納入をお願いいたします。なお、会則第8条(2)にもとづき、会費を連続3年間未納の場合には会員を「除名」となりますのでご注意ください。
- ・年会費については『音楽表現学』巻末に「経費関係細則」が掲載されています。なお、学生会員は、学部生に限られます(会則第5条)。
- ・納入は必ず郵便振替でお願いします。無意識滞納対策の一助として、納入後はただちに、振替票右側の「振替払込請求書兼受領証」(ATMご利用の場合は「ご利用明細票」)に、納入年度のメモを記載の上、保存くださることをお勧めいたします。

なお、学会では原則として改めての領収書発行はいたしていません。

2) 住所・所属・電話番号・メールアドレスの変更は速やかにお届け下さい!

事務局からさまざまなお知らせをメール配信しておりますが、リターン・メールがつねに何通かあります。また、機関誌『音楽表現学』等の重要書類が返送されることもあります。メールアドレス、連絡先ご住所、ご所属等を変更された場合には、下記アドレスから、会員情報フォームに変更事項を入力いただくか、あるいは事務局まで変更事項をお知らせくださいますようお願い申し上げます。

<http://www.music-expression.sakura.ne.jp/form/postmail2.html>

事務局からのお知らせ

1) ニュースレターへの投稿

ニュースレターは会員の交流の場です。音楽表現に関するご意見など、ご寄稿ください。

- ・研究ノート、随想など：図表を含めて刷り上がり1頁以内
- ・コンサート案内：学会後援・協賛のものを掲載します。
- ・新刊案内・CD/DVDリリース：会員による刊行物等の紹介を行います。購入方法なども含めてお知らせください。
- ・その他：所属されている他学会の情報などもお寄せください。
- ・投稿受付は随時、ワードの添付書類で学会事務局宛にお願いします。
music-expression@music-expression.sakura.ne.jp

- ・大会の口頭発表は、これまでの研究を発信し、それを参加者一同と共有する場です。会員自身の音楽表現の創意や工夫、実践を披露し、その妥当性を問うワークショップなど、日本音楽表現学会ならではの生の音楽表現を含めた発表の機会をご利用下さい。
- ・コンサートの後援・協賛のご案内：会員による各種演奏、ワークショップ、イベントなどの活動を学会は「後援または協賛」します。本学会ホームページのリンクから、〔コンサート等後援/協賛申請フォーム〕にて申請してください。

3) 『音楽表現学』バックナンバー購入方法

メール等で事務局までお申し込みください。以下の代金は、到着後郵便振替でお願いします。

会員価格：Vol.2～Vol.3は 1部 1500円+送料

Vol.4～Vol.10は 1部 3000円+送料

一般価格：Vol.2～Vol.3は 1部 3000円+送料

Vol.4～Vol.10は 1部 3500円+送料

大学図書館などへの納入については事務局にお問い合わせください。なお、Vol.1は残部がありません。

2) 学会の会員サポート制度をご活用下さい。

- ・研究発表の場の一つが機関誌『音楽表現学』です。『音楽表現学』に論文が掲載されると、大学などでは「査読付学术论文」としての評価を受けます。年度末などに業績の報告をされる際には、その旨をお記し下さい。

【各種書式】

1) 「入会申込書」

<p style="text-align: center;">入 会 申 込 書</p> <p style="text-align: center;">日本音楽表現学会に入会を申し込みます。</p> <p style="text-align: right;">年 月 日</p> <p>氏 名 (ふりがな):</p> <p>専門分野:</p> <p>所 属:</p> <p>自宅住所: 〒</p> <p>連絡先: (上記と異なる場合) 〒</p> <p>連絡先 Tel.:</p> <p>e-mail:</p> <p>推薦者名 (学会員・1名)</p> <p>音楽表現学会に期待されること。ご意見等:</p>	<p>[備考]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「入会申込書」を送付いただきましたら、事務局から年会費納入のための郵便振替票を送ります。年会費ご入金の確認をもって手続きを進め、入会承認後、「入会承認のお知らせ」文書をお手元にお届けします。 ・入会申込書はHPからもダウンロードできます。 ・学会からの連絡（印刷物お届けなど）は、ご記入いただいた「連絡先」に届けます。 ・お届けいただいた情報は、事務局で厳重に管理し、学会事務以外の使用目的には供しません。
---	---

2) 「後援願」書式 学会ホームページの〔コンサート・出版物等後援・協賛申請フォーム〕に必要事項を記入して申請ください。

3) その他 他の書式が必要なきには、事務局へお申し出下さい。



2012 年度役員	編集後記
<p>会長：安藤 政輝</p> <p>理事：奥 忍 北山 敦康 後藤 丹 小畑 郁男 杉江 淑子 吉永 誠吾</p> <p>編集委員会： 安藤 珠希 伊野 義博 小野 亮祐 河本 洋一 菅 道子 木下 千代</p> <p>選挙管理委員会： 坂東 肇 中 磯子 井上 朋子</p> <p>監事：長岡 功 海津 幸子</p> <p>会長諮問会議： 草下 實 佐々木 正利 中村 隆夫 安田 香</p> <p>参事：袴田 和泉 近藤 晶子 似内 裕美子 松井 萌</p>	<p>大分県南部の私の故郷とよく似たリアス式海岸の街が津波に襲われる衝撃的な映像を見たあの日から2年が経ちました。まだ復興もままならない地域が多い岩手県の県都である盛岡市で第11回大会が開催されます。日本全国から集まる会員の思いが大会実行委員会の皆さんとひとつになって、これからの十年のスタートとなる今大会が収穫に満ちたものになることを確信しています。</p> <p>美しい新緑の季節に開催される「イーハトーヴ大会」で会員の皆さんと再会できるのを楽しみにしております。</p> <p style="text-align: right;">(北山敦康)</p>